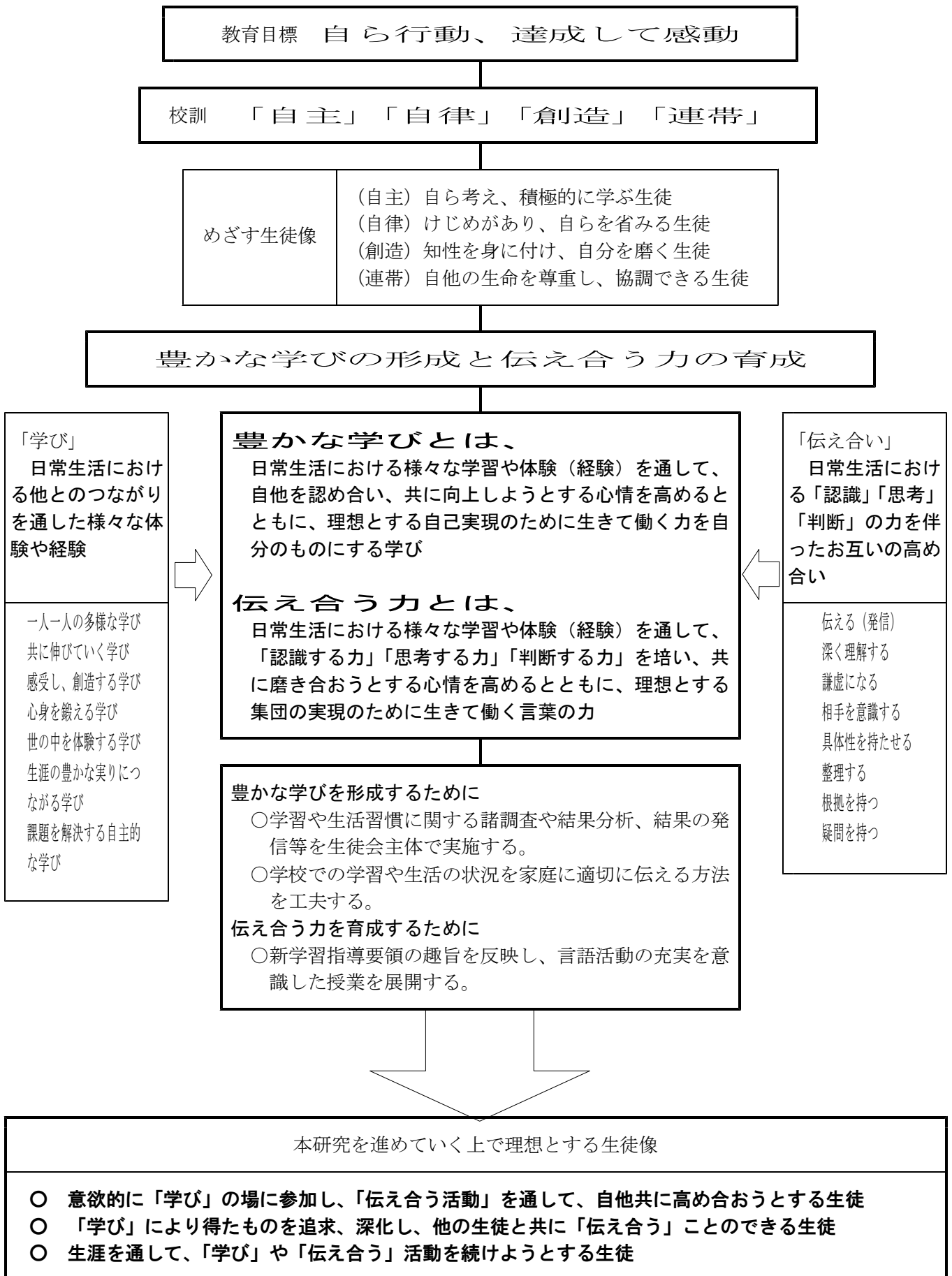


# I 総論

## 1. 研究構想図

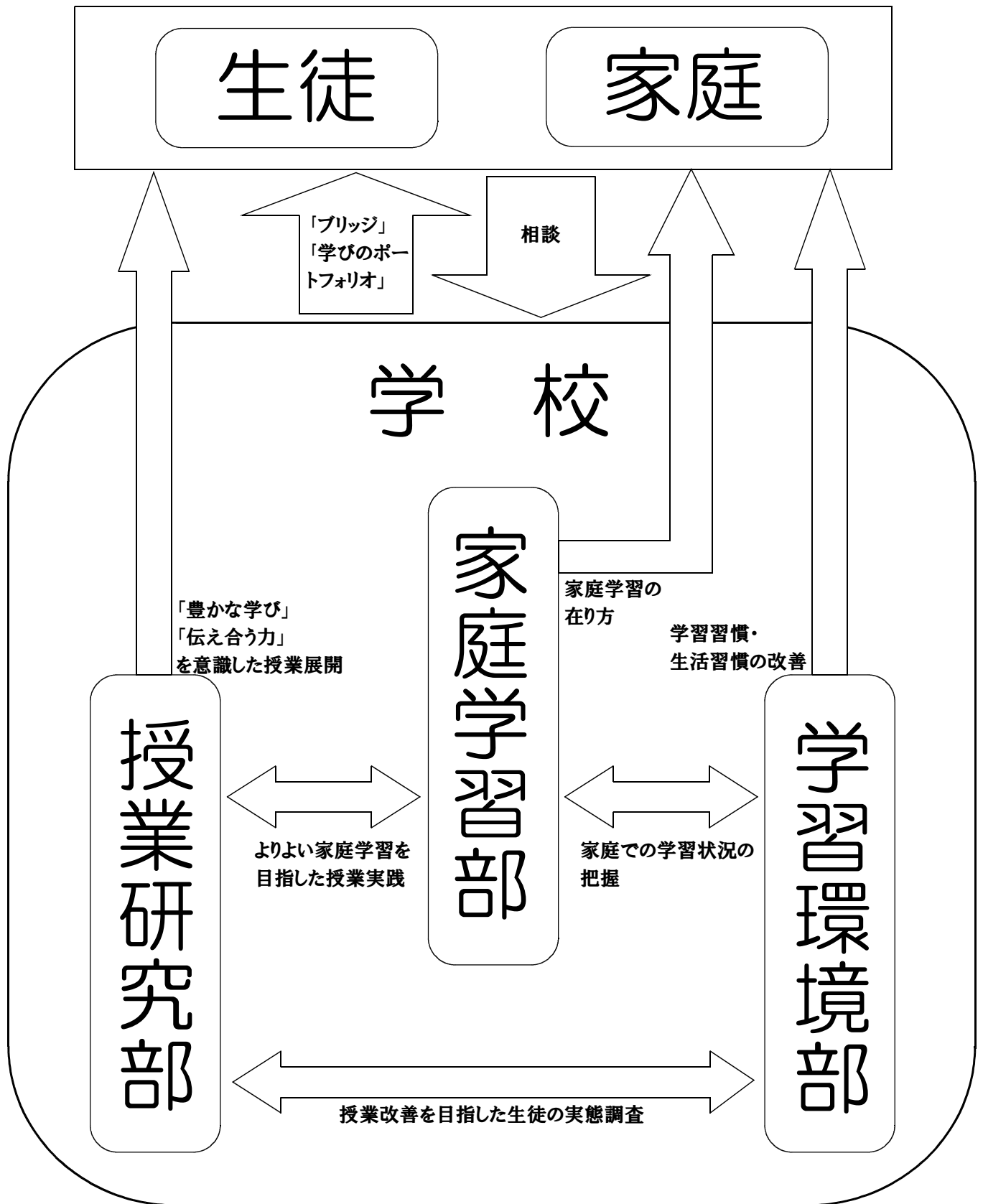


## 2. 研究組織

研究を進めるにあたり、「授業研究部」「学習環境部」「家庭学習部」の3部会を組織し、研究推進委員会が連絡調整しながら研究内容を共有し合うこととした。

各部会の研究内容は次のとおりである。

<p>授業研究部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語活動の充実を図る実践授業研究を行う。</li> <li>○各教科1人以上の教師で組織し、言語活動の充実を図る日々の実践例の報告や、言語活動の充実を図るための校内研究授業及びその指導案検討を行う。</li> <li>○「豊かな学び」「伝え合う力」の推進のために、本校独自の授業形態の研究を行う。</li> <li>○授業改善のため、全教師が細やかな単元計画を作成することにより、研究主題と関わりのある授業展開を改めて意識し、「豊かな学び」「伝え合う力」の育成を図る。</li> <li>○「家庭環境部」と協力して、生徒の学習習慣の状況を把握する。また、「家庭学習部」と連携を図り、家庭学習につながる授業研究を行う。</li> <li>〈授業形態研究班〉             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇研究授業や単元計画から、「豊かな学び」「伝え合う力」の育成に効果的な授業形態を研究し、職員で共通理解及び実践を図る。</li> </ul> </li> <li>〈学習習慣把握班〉             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇授業中及び日常生活の中で「豊かな学び」「伝え合う力」の実践ができているか、アンケート調査を実施し、その改善を図るための研究を行う。</li> </ul> </li> <li>〈指導案検討班〉             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「豊かな学び」「伝え合う力」を育む授業展開、指導案様式の検討を行う。</li> </ul> </li> </ul>
<p>学習環境部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭との連携、生徒会活動との連携による学習・生活習慣調査とその改善等の研究を行う。</li> <li>○生徒会・生徒指導担当教師を中心に組織し、学習・生活環境のアンケート調査の実施、その改善に向けた生徒会活動の在り方を検討する。教師からの働きかけからの学習・生活環境の改善に加え、生徒間の活動による改善の取組を研究する。</li> <li>○昨年度作成した「郡中授業心得」を徹底し、教師の指導に対する共通理解を図りながらその改善を図る。</li> <li>○学習・生活習慣の向上に向け、教師側の働きかけに加え、生徒間の活動の推進・保護者への啓発を行う。</li> <li>〈学習環境班〉             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒会学習委員会が行っている学習態度や家庭学習状況を調査する学習部検定について研究する。また、学習規律の徹底を図る。</li> </ul> </li> <li>〈生活習慣班〉             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒会保健委員会が行っている「早寝・早起き・朝ご飯チェック」のデータを検討し、家庭での生活について保護者に協力を求める活動を行う。</li> </ul> </li> </ul>
<p>家庭学習部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習につながる教師側からの取組の研究を行う。</li> <li>○5教科の担当教師を中心に組織し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指した家庭学習の在り方を検討する。また、前期前半の学習状況通知「ブリッジ」の作成、学級担任が保護者との面談や教育相談時に活用する「学びのポートフォリオ」の作成及び検討、自主学習に対する教師の取組等の検討を行い、郡中学校の家庭学習の在り方についてまとめ、生徒への徹底を図る。</li> <li>○「学習環境部」の調査結果から自主学習の状況を把握し、「授業研究部」と連携して、家庭学習につながる授業展開を研究する。また、本年度3年目となる「ブリッジ」の発行について、内容の検討・アンケート調査を行い、保護者や生徒にとってより良い家庭学習の在り方を提案できるように研究を進める。</li> </ul>



## II 実践

### 1. 単元指導計画

各教師が授業改善を目指し、緻密な単元指導計画を練り、研究との関わりを計画的に進めていくことを目的とした単元指導計画の作成を行った。

本年度は、6月、11月を中心とした単元計画を2つ作成することとし授業改善に努めた。

6月を中心とした単元指導計画では、「単元のねらい」「指導計画」「研究との関わり」を明記した指導計画を作成した。11月を中心とした指導計画では、「前回のアンケート調査結果からの考察」「評価」の項目を追加し、より充実した指導計画の作成を目指した。

### 2. 長期休業前の生徒の学習状況を通知する「ブリッジ」の作成

大村市では2学期制を実施しており、長期休業前に各家庭へ学習状況の通知を発行していないため、本校では、平成21年度より夏季休業前に前期前半の学習状況と夏季休業中の学習のヒントを載せた通知「ブリッジ」を作成・配付している。

[ブリッジの取組内容]

(ア) 国社数理英の5教科について作成する。

(イ) 前期前半の学習内容、学習目標の実現状況（評価）、学習のヒント、実現状況の判定資料を入れる。

①学習内容・・・・・・・・何を学習したかを記す。学習項目の列挙でもかまわない。

②学習目標の実現状況・・・定期テストの観点別の点数を基にして、満点に対する割合をパーセンテージで表す。

③学習のヒント・・・・・・・・観点別に、何ができていないのか、夏休みに何をどのように学習すればよいのかを具体的にアドバイスしたものを記す。この具体的なアドバイスについては、学習目標の実現状況に応じて各観点4段階程度に分けて提示している。

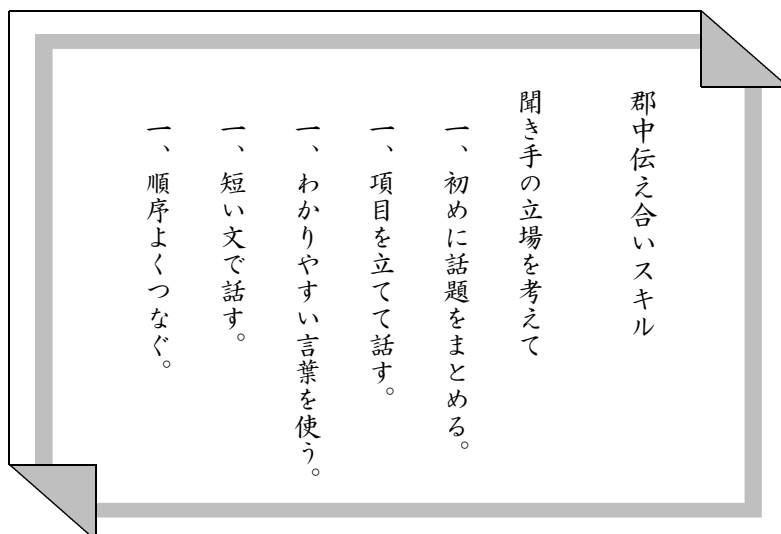
④実現状況の判定資料・・・②の実現状況を判定した資料を提示する。

(ウ) 夏休み前に、各家庭に配付する。

(エ) 学級担任には、できるだけ早期に配付し、教育相談でのアドバイスに役立てる。

### 3. 「郡中伝え合いスキル」の作成及び指導

「伝え合う力」の育成のため、生徒に分かりやすく話すスキルを育成することが必要と考え、授業研究部より「郡中伝え合いスキル」を提案し、各教室に掲示し、生徒への指導の徹底を図る。全学級で「郡中伝え合いスキル」を意識した「1分間スピーチ」を実施することで、「伝え合う力」の育成に努めている。



#### 4. 「学びのポートフォリオ」の作成

本年度からの取組として、生徒の学びの成長が分かる「学びのポートフォリオ」の作成を準備している。

全生徒分の持ち出しファイルを準備し、一人ひとりの「学び」の伸びを確認できるポートフォリオの作成を目指している。現在は、CRT検査結果、「ブリッジ」を入れているが、今後、3年間の成長を見据えて、各行事の感想文、美術科作品の写真なども加え、ファイルの中身から生徒の「学び」の伸びが確認できるものにしたい。

#### 5. 「学習部検定」の実施

生徒会学習委員会を中心とした活動で、生徒の学習状況について調査する「学習部検定」を行っている。アンケート調査質問項目は次のとおりである。

- 1 授業前の着席をすることができましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 2 授業前に着席ができているときは何分前に着席していますか？  
①5分以上前 ②3分前 ③2分前 ④1分前
- 3 授業前に学習用具の準備はできましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 4 授業の終始のあいさつは、礼法を守ってすることができましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 5 集中して授業に取り組むことができましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 6 授業中は進んで発表しようとするすることができましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 7 学習用具の忘れ物をせず授業を受けることができましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 8 学習用具は毎日家に持ち帰ることができましたか？  
①よくできた ②どちらかといえばできた ③どちらかといえばできなかった ④ほとんどできなかった。
- 9 家庭学習に取り組むことができましたか？  
①ほぼ毎日 ②週に4～5日 ③週に2～3日 ④週に1日以下
- 10 家庭学習に取り組む時間はどれくらいでしたか？  
①3時間以上 ②3～2時間 ③2～1時間 ④1時間以下

この調査を実施することにより、生徒の授業へ取り組む姿勢や、家庭学習の状況を把握することができた。調査結果を受けて、生徒会主体で、授業への取組のチェックや家庭学習のチェック等を行い、生徒の学習状況の改善を生徒間で取り組んだ。

### Ⅲ 今後の課題

#### 1. 学習や生活習慣に関する諸調査や結果分析、結果の発信等の工夫

- 「学習部検定」や「早寝・早起き・朝ご飯チェック」等の学習や生活状況のアンケート調査結果を保健便りや生徒会新聞を通して家庭に発信している。また、CRT 検査等の学力検査の結果は、2者面談を通して生徒や保護者に発信している。  
現在の状況でベストと考えずに、今後これらの諸調査結果及び分析等の家庭への発信の仕方や、学習や生活習慣の向上を目指した家庭との連携の在り方を検討し、実践していく必要がある。
- 前期前半の学習状況の通知である「ブリッジ」を発行し、保護者に前期前半の学習目標の実現状況と夏休みに向けた学習のヒントを発信している。  
学習のヒントの出し方や、学習目標の実現状況を出すための資料の精査などを行い、長期休業の家庭学習がより良いものとなるように改善を図り、一層の向上を目指したい。
- 「学びのポートフォリオ」の活用について、ファイルに入れる資料や生徒への還元方法を検討する必要がある。

#### 2. 言語活動の充実を意識した一層の授業改善

- 本年度は、「伝える」ことに重点を置いて「郡中伝え合いスキル」を設定し、指導してきた。  
今後は、その指導を徹底するとともに、「伝え合う力」を育成するために、発信と受信の両面からスキルの内容を精査して設定する必要がある。
- 本年度、単元指導計画を作成するにあたり、全職員が新学習指導要領をしっかりと確認し、指導要領に沿った学習指導を意識することができた。  
今後も、全面実施となる平成24年度当初から、新学習指導要領の趣旨に沿った学習指導を継続するために、学習指導要領の研修を深めていきたい。